

SPARC T5-1B サーバーモジュール

プロダクトノート

Copyright © 2013 , Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴ は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

1. このドキュメントの使用方法	5
関連ドキュメント	5
フィードバック	5
Oracle サポートへのアクセス	5
2. 最新情報	7
サポートされているシャーシ	7
プリインストールされているソフトウェア	7
サポートされている最小バージョンのファームウェア、OS、およびソフトウェア	8
Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新	9
Oracle Solaris 10 OS の必須パッチ	9
Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ	9
Oracle Solaris 10 8/11 の必須パッチ	10
Oracle Solaris 10 9/10 の必須パッチ	10
パッチを取得する	11
サーバーモジュールの電力使用量の構成	11
サーバーモジュールの電力管理	11
電力使用量を制限する	12
既知の問題	14
rKVMS では SPARC クライアントからのストレージのリダイレクトがサポートさ れていない (15795058)	15
マウスポインタがリモートウィンドウのカーソルに同調していない (15798251)	15
警告メッセージが障害の発生した USB 接続を正しく示していない (15799824)	16
libldom/ldom_xmpp_client.c 内でファイル記述子が漏えいしている (15811297)	17
誤った sunos.eft.unexpected_telemetry 障害が報告されることがある (15820471)	18
ilomconfig が Internal Error を報告することがある (15823485)	19
再構成のあとに POST が機能しない (15968276)	20
一部の USB 3.0 デバイスでタイムアウトが発生し、ホストがハングアップするこ とがある (16019551 および 15985683)	20
Link error on port 3 警告 (16038894)	21
ドライブを構成解除したときに、ドライブの取り外し OK LED が点灯しないこ とがある (16051551)	21
iPOST の power-on-reset、error-reset、および hw-change トリガーが機 能しない (16192025)	24
同じ名前の複数の ldmd 構成ファイルが存在する場合に Oracle ILOM が混 乱する (16239544)	25

SAS Disconnected command timeouts が表示されることがたまにある (16345218)	25
CPU の電力管理によってディスクの IOPS パフォーマンスが低下する可能性 がある (16355418)	26
Oracle Solaris 10 OS が一部の障害情報を表示しない (16456603)	26

1

・・・ 第 1 章

このドキュメントの使用方法

このドキュメントには、Oracle の SPARC T5-1B サーバーモジュールに関する最新情報と既知の問題が記載されています。

- [5 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [5 ページの「フィードバック」](#)
- [5 ページの「Oracle サポートへのアクセス」](#)

関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
SPARC T5-1B サーバーモジュール	http://www.oracle.com/goto/T5-1B/docs
Sun Blade 6000 モジュラーシステム	http://www.oracle.com/goto/SB6000/docs
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM)	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Solaris 11 OS	http://www.oracle.com/goto/Solaris11/docs
Oracle Solaris 10 OS	http://www.oracle.com/goto/Solaris10/docs
Oracle VM Server for SPARC	http://www.oracle.com/goto/VM-SPARC/docs
Oracle VTS	http://www.oracle.com/goto/VTS/docs

フィードバック

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください。

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通して電子サポートにアクセスできます。詳細については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> または聴覚に障害をお持ちの場合は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

・・・第 2 章

2

最新情報

これらのセクションには、サーバーモジュールに関する重要な情報および最新のニュースが記載されています。

- ・ [7 ページの「サポートされているシャーシ」](#)
- ・ [7 ページの「プリインストールされているソフトウェア」](#)
- ・ [8 ページの「サポートされている最小バージョンのファームウェア、OS、およびソフトウェア」](#)
- ・ [9 ページの「Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新」](#)
- ・ [9 ページの「Oracle Solaris 10 OS の必須パッチ」](#)
- ・ [11 ページの「サーバーモジュールの電力使用量の構成」](#)
- ・ [14 ページの「既知の問題」](#)

サポートされているシャーシ

Oracle の Sun Blade 6000 モジュラーシステムにはいくつかのバージョンがあります。最新の 2 つのバージョンは、SAS-1 および SAS-2 モジュラーコンポーネントをサポートしています。

シャーシを介してこのサーバーモジュールに接続されている Gen2 対応 PCIe EM および NEM は、Gen2 速度で動作します。Gen1 対応デバイスは、Gen1 速度で動作します。

このサーバーモジュールは、次のシャーシモデルでサポートされています。

シャーシ	最小の CMM ソフトウェア
最新モデル (A90-D および 7105379) モジュラーシステム	4.2 またはそれ以降 (Oracle ILOM 3.1.1.10 を装備)
旧モデル (A90-B) モジュラーシステム	3.3.5 またはそれ以降 (Oracle ILOM 3.0.12.11.d を装備)

シャーシのバージョンを確認するには、*Sun Blade 6000 モジュラーシステムのサービスマニュアル*に記載されているシャーシのパーツ番号に関するセクションを参照してください。

プリインストールされているソフトウェア

ソフトウェア	場所	説明
Oracle Solaris 11.1 OS	OS はドライブ 0 にインストールされています (ZFS ファイルシステムを使用)。	ホスト OS。

ソフトウェア	場所	説明
Oracle VM Server for SPARC ¹	<code>/opt/SUNWldm</code>	論理ドメインを管理します。
Electronic Prognostics ¹	<code>/usr/lib/ep</code>	特定の FRU 障害の可能性について早期の警告を提供します。
Oracle VTS ¹	<code>/usr/sunvts</code>	ハードウェアの検証テストを提供します。

¹これらのソフトウェアコンポーネントは、Oracle Solaris 11.1 OS ディストリビューションの一部です。

プリインストールされている OS は、サーバーモジュールに最初に電源を投入した際の適切な時点で構成可能になります。

必須のパッケージ更新はプリインストールされていない可能性があります。サーバーモジュールを本稼働環境に移す前に、必ず必須の更新をすべて取得してインストールしてください。[9 ページ](#)の「[Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新](#)」を参照してください。

Oracle Solaris OS のインストールおよび構成の手順については Oracle Solaris のドキュメントを参照してください。

プリインストールされている OS を使用する代わりに、その OS を必須のパッケージ更新またはパッチとともに再インストールできます。[8 ページ](#)の「[サポートされている最小バージョンのファームウェア、OS、およびソフトウェア](#)」を参照してください。

サポートされている最小バージョンのファームウェア、OS、およびソフトウェア

Oracle VM Server for SPARC をサーバーに構成する場合は、その OS の最小 (またはそれ以降) のバージョンをさまざまに組み合わせてインストールできます。たとえば、SRU 4.6 を含む Oracle Solaris 11.1 を制御ドメインに使用し、Oracle Solaris 10 9/10 をゲストドメインに使用できます。

ソフトウェア	サポートされている最小バージョン
Sun システムファームウェア	9.0.0.c またはそれ以降のサポートされているリリースには Oracle ILOM 3.2.1 が含まれています
Oracle Solaris 11 OS	制御ドメイン、ゲストドメイン、および非仮想化構成の場合: Oracle Solaris 11.1 SRU 4.6 これらのソフトウェアコンポーネントを含みます。 <ul style="list-style-type: none"> • Oracle VM Server for SPARC 3.0.0.2 • Oracle Electronic Prognostics • Oracle VTS 7.0 PS 15 9 ページ の「 Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新 」も参照してください。
Oracle Solaris 10 OS	• 制御ドメイン、ゲストドメイン、および非仮想化構成の場合: Oracle Solaris 10 1/13 • ゲストドメインの場合のみ: Oracle Solaris 10 9/10 OS または Oracle Solaris 10 8/11 OS に Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルおよびパッチを追加。 Oracle Solaris 10 OS には Oracle VTS 7 PS15 が含まれています

ソフトウェア	サポートされている最小バージョン
	これらのソフトウェアコンポーネントをインストールできます。
	<ul style="list-style-type: none"> • Oracle VM Server for SPARC 3.0 • Oracle Electronic Prognostics 1.3
	9 ページの「Oracle Solaris 10 OS の必須パッチ」も参照してください。

Oracle Solaris 11 OS の必須のパッケージ更新

現時点で、プリインストールされた Oracle Solaris 11.1 OS をこのサーバーモジュールで使用するために必要なパッケージ更新はありません。

OS を再インストールする場合は、サーバーモジュールやオプションのハードウェアまたはソフトウェアコンポーネントを本稼働環境に移す前に特定のパッケージ更新のインストールが必要になることがあります。サーバーモジュールには、少なくとも Oracle Solaris 11.1 SRU 4.6 が必要です。

最新の Oracle Solaris 11.1 SRU (Support Repository Update) をインストールしてください。このアクションを取ることで、確実に最新のソフトウェアがサーバーモジュールに組み込まれ、最良のパフォーマンス、セキュリティ、および安定性を得ることができます。

サーバーモジュールに現在インストールされている SRU を表示するには、**pkg info entire** コマンドを使用します。

入手可能な SRU を更新リポジトリ (<https://pkg.oracle.com/solaris/support>) からダウンロードするには、**pkg** コマンドまたはパッケージマネージャー GUI を使用します。



注記

Oracle Solaris 11 のパッケージ更新リポジトリにアクセスするには、必須の SSL 証明書およびサポートキーのインストールを可能にする Oracle サポート契約を結ぶ必要があります。<http://www.oracle.com/technetwork/articles/servers-storage-admin/o11-018-howto-update-s11-1572261.html> にある記事を参照してください。Oracle の証明書リクエストの Web サイト (<https://pkg-register.oracle.com>) に移動してください。

Oracle Solaris 10 OS の必須パッチ

Oracle Solaris 10 OS のインストールを選択した場合は、追加のパッチ (および場合によってはパッチバンドル) もインストールする必要があります。

Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ

このバージョンの OS は、制御ドメイン、ゲストドメイン、または非仮想化構成でサポートされていません。

インストール順序	OS またはパッチ
1	Oracle Solaris 10 1/13 OS

インストール順序	OS またはパッチ
2	必須パッチ: <ul style="list-style-type: none"> • 148322-07 (またはそれ以降) • 148324-06 (またはそれ以降) • 148888-01 (またはそれ以降) • 149638-01 (またはそれ以降) • 149644-01 (またはそれ以降) • 150011-02 (またはそれ以降) • 150025-01 (またはそれ以降) • 150027-01 (またはそれ以降) • 150107-01 (またはそれ以降)

Oracle Solaris 10 8/11 の必須パッチ

このバージョンの OS は、ゲストドメインでのみサポートされています。

インストール順序	OS またはパッチ
1	Oracle Solaris 10 8/11 OS
2	Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドル
3	Oracle Solaris 10 1/13 のすべての必須パッチ。 9 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ」 を参照してください。



注記

Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールするまで、Oracle Solaris のバグ 15712380、15704520、15665037 が発生する可能性があります。最初の 2 つのバグは、Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールすると解決されます。これらのバグは、パッチのインストールに影響しません。

Oracle Solaris 10 9/10 の必須パッチ

この OS は、ゲストドメインでのみサポートされています。

インストール順序	OS またはパッチ
1	Oracle Solaris 10 9/10 OS
2	Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドル
3	Oracle Solaris 10 1/13 のすべての必須パッチ。 9 ページの「Oracle Solaris 10 1/13 の必須パッチ」 を参照してください。



注記

Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールするまで、Oracle Solaris のバグ 15712380、15704520、15665037 が発生する可能性があります。最初の 2 つのバグは、Oracle Solaris 10 1/13 SPARC バンドルをインストールすると解決されます。これらのバグは、パッチのインストールに影響しません。

パッチを取得する

Oracle Solaris 10 OS のパッチを取得するには、これらの手順を実行します。

1. My Oracle Support にサインインします。

<http://support.oracle.com> に移動します。

2. 「パッチと更新版」タブを選択します。
3. 「パッチ検索」パネルを使用してパッチを検索します。

「パッチ名または番号」フィールドを使用して検索する場合は、パッチの完全な名前または番号を指定する必要があります。例:

- Solaris 10 1/13 SPARC Bundle
- 13058415
- 147159-03

リビジョン番号 (最後の 2 桁) のないパッチ番号を使用して検索するには、リビジョン番号の代わりに % を入力します。例:

14159-%

4. パッチが見つかったら、README にアクセスして、そのサイトからパッチをダウンロードします。

パッチの README には、パッチのインストール手順が記載されています。

サーバーモジュールの電力使用量の構成

これらのトピックでは、サーバーモジュールの電力使用量を構成する方法について説明します。

- [11 ページの「サーバーモジュールの電力管理」](#)
- [12 ページの「電力使用量を制限する」](#)

サーバーモジュールの電力管理

Sun Blade 6000 モジュラーシステムはさまざまなサーバー、ストレージ、および I/O モジュールに対応するため、モジュラーシステムで供給できる電力を超える可能性のある構成を作成することが可能です。

いくつかのツールや手法を使用すると、モジュラーコンポーネントで使用される電力を管理できます。

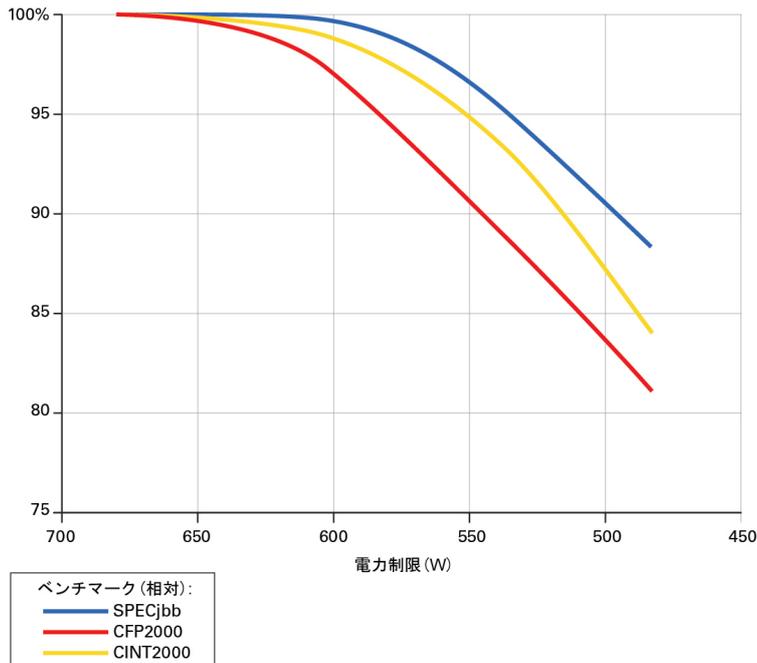
- **Sun Blade Modular System Power Calculator** – モジュラーコンポーネントのシステムレベルの最悪な場合の電気負荷を推定するためのガイダンスを提供します。このツールにアクセスするには、次に移動します。

<http://www.oracle.com/us/products/servers-storage/sun-power-calculators/calc/6000chassis-power-calculator.html>

- **Oracle ILOM** – 消費電力および警告通知のための構成プロパティを提供します。詳細は、『Oracle ILOM 構成および保守用管理者ガイド』、「電源警告通知の設定とシステムの電力使用の管理」を参照してください。

- SPARC T5 電力制限機能** – サーバーモジュールのパフォーマンス要件に適合するように電力ポリシー設定を調整できるようにします。この機能は、特に SPARC T5-1B サーバーモジュールに役立ちます。電力数を低くすると、シャーシに取り付けられるサーバーモジュールの数を増やすことができます。ただし、特定の作業負荷がかかっている間 (特に負荷が最大の状態で) は CPU スロットルが発生する可能性があります。

この図に示すパフォーマンス低下の例では、256G バイトのメモリ (必要な最大電力は約 680W) を搭載したサーバーモジュールの負荷は電力制限の範囲で 3 種類のベンチマーク負荷よりも小さくなる可能性があります。



詳細は、Oracle サービスプロバイダにお問い合わせください。電力制限機能の使用方法の手順については、[12 ページの「電力使用量を制限する」](#)を参照してください。

電力使用量を制限する

シャーシ内で使用できるサーバーモジュールの数が増えるように、個々の SPARC T5-1B サーバーモジュールで使用される電力制限を低くするには、この手順を使用します。

この手順で示される Oracle ILOM コマンドの包括的な説明は、*Oracle ILOM 構成および保守に関する管理者ガイド*、「電源警告通知の設定とシステムの電力使用の管理」を参照してください。

- すでにほかのコンポーネントで動作しているモジュラーシステムにサーバーモジュールを追加する場合は、使用可能な電力割当量を確認します。

- CMM で Oracle ILOM ブラウザインタフェースにログインします。

ブラウザのアドレスフィールドで、CMM の IP アドレスを入力して Return キーを押し、ログインします。

- 左側のペインで、「Power Management」 > 「Allocation」をクリックします。

「Power Allocation Plan」が表示されます。

The screenshot shows the Oracle Integrated Lights Out Manager interface. The main content area is titled "Power Allocation Plan" and includes the following sections:

- System Power Specification:** A table with columns "Power Values", "Watts", and "Notes".

Power Values	Watts	Notes
Power Supply Maximum	12800	Maximum power the available PSUs can draw
Redundant Power	0	Amount of <i>Power Supply Maximum</i> reserved by redundancy policy
Peak Permitted	12800	Maximum power the system is permitted to consume (set to <i>Power Supply Maximum</i>)
Allocated Power	5702	Sum of <i>Allocated Power</i> for chassis components and <i>Granted Power</i> for blades
- Blade Power Map:** A text description: "Blades request *Required Power* at blade power on, and in response to changes in power capping configuration. If the requested power is not granted, the blade will not power on."
- Blade Slot Power Summary:** A table with columns "Power Values", "Watts", and "Notes".

Power Values	Watts	Notes
Grantable Power	7098	Remaining power the system can grant to blades without exceeding <i>Peak Permitted</i>
Unfilled Grant Requests	1881	Sum of <i>Required Power</i> for blades that have not yet been granted power
- Blade Power Grants:** A table with columns "Blade Slot", "Grant Limit (Watts)", "Required Power (Watts)", and "Granted Power (Watts)".

Blade Slot	Grant Limit (Watts)	Required Power (Watts)	Granted Power (Watts)
- TOTAL	-	4917 (total)	3036 (total)
0	1200	673	0
1	1200	600	0
2	1200	Empty Slot	-
3	1200	Empty Slot	-

- c. 「Blade Slot Power Summary」テーブルで、許容電力に示されているワット数を書きとめます。

この値が追加のコンポーネントのための電力割当量になります。

2. 電力計算機能を使用して、各 SPARC T5-1B サーバーモジュールの必要な電力量を計算します。

<http://www.oracle.com/us/products/servers-storage/sun-power-calculators/calc/6000chassis-power-calculator.html> に移動します。

3. 目標数のサーバーモジュールが電力割当量を超える場合は、サーバーモジュールごとの電力割当量を確認します。

その計算機能で提案される最低電力割当量よりも低い電力割当量を選択します。サーバーモジュールに適用する電力割当量が低いほど、シャーシ内に取り付けられるサーバーモジュールの数が増えます。

4. 追加のサーバーモジュールをすべてモジュラーシステムに取り付けます。

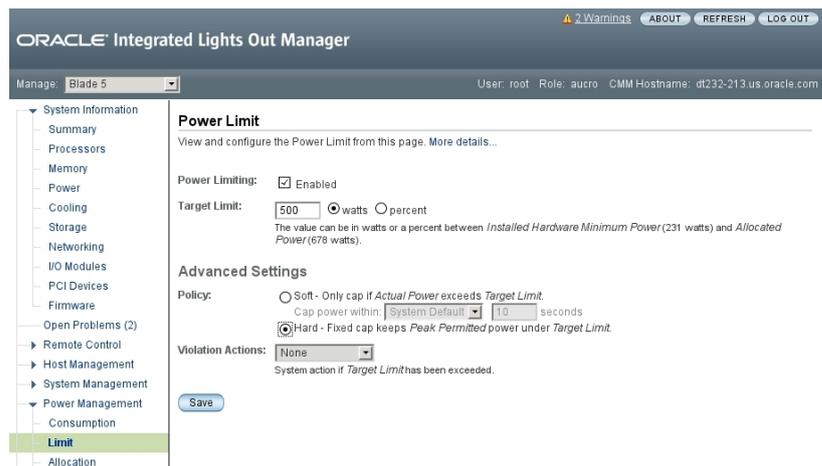
詳細は、『SPARC T5-1B サーバーモジュール設置ガイド』を参照してください。

5. SPARC T5-1B サーバーモジュールごとに、電力制限を設定します。
- a. Oracle ILOM CMM ブラウザインタフェースで、サーバーモジュールのページに移動します。

左上の隅の「Manage」プルダウンメニューで、サーバーモジュールを選択します。

- b. 「Actions」パネルで、電源を切ります。
- c. 左側のナビゲーションパネルで、「Power Management」>「Limit」を選択します。
- d. 「Target Limit」フィールドに電力割当量の値を入力し、「Policy」設定で「Hard」を選択して、「Save」をクリックします。

「Target Limit」は、サーバーモジュールで消費される最小電力とサーバーモジュールで許容される最大消費電力（許容される最大量）の間に設定します。



e. ホストの電源を投入します。

「Summary」ページに戻り、サーバーモジュールの電源を入れます。

6. [ステップ 1](#) を繰り返して、すべてのコンポーネントが使用可能な電力割当量の範囲内で動作していることを確認します。

さらなる調整が必要な場合は、[ステップ 5](#) を繰り返します。

既知の問題

これらのトピックでは、Oracle の SPARC T5-1B サーバーモジュールの既知の問題について詳しく説明します。

- [15 ページの「rKVMS では SPARC クライアントからのストレージのリダイレクトがサポートされていない \(15795058\)」](#)
- [15 ページの「マウスポインタがリモートウィンドウのカーソルに同調していない \(15798251\)」](#)
- [16 ページの「警告メッセージが障害の発生した USB 接続を正しく示していない \(15799824\)」](#)
- [17 ページの「libldom/ldom_xmpp_client.c 内でファイル記述子が漏えいしている \(15811297\)」](#)
- [18 ページの「誤った sunos.eft.unexpected_telemetry 障害が報告されることがある \(15820471\)」](#)
- [19 ページの「ilomconfig が Internal Error を報告することがある \(15823485\)」](#)
- [20 ページの「再構成のあとに POST が機能しない \(15968276\)」](#)
- [20 ページの「一部の USB 3.0 デバイスでタイムアウトが発生し、ホストがハングアップすることがある \(16019551 および 15985683\)」](#)
- [21 ページの「Link error on port 3 警告 \(16038894\)」](#)
- [21 ページの「ドライブを構成解除したときに、ドライブの取り外し OK LED が点灯しないことがある \(16051551\)」](#)
- [24 ページの「iPOST の power-on-reset、error-reset、および hw-change トリガーが機能しない \(16192025\)」](#)

- 25 ページの「同じ名前の複数の **ldmd** 構成ファイルが存在する場合に Oracle ILOM が混乱する (16239544)」
- 25 ページの「**SAS Disconnected command timeouts** が表示されることがたまにある (16345218)」
- 26 ページの「CPU の電力管理によってディスクの IOPS パフォーマンスが低下する可能性がある (16355418)」
- 26 ページの「Oracle Solaris 10 OS が一部の障害情報を表示しない (16456603)」

rKVMS では SPARC クライアントからのストレージのリダイレクトがサポートされていない (15795058)

Oracle Solaris システムでの Java Remote Console Plus のストレージ機能の起動はサポートされていません。

回避方法: Java Remote Console Plus のストレージ機能は、Linux または Windows システムで起動してください。サポートされているブラウザ、オペレーティングシステム、およびプラットフォームの完全なリストについては、*Oracle ILOM 構成および保守に関する管理者ガイド*を参照してください。

マウスポインタがリモートウィンドウのカーソルに同調していない (15798251)

Oracle ILOM ビデオリモートコンソールのマウスポインタが正しく追跡しないことがあります。カーソル位置が Oracle Solaris ホストの Xorg サーバーと同調せず、マウスの移動や選択が困難な状態になる可能性があります。

回避方法 A: すぐに行えるが永続的ではない解決策として、GNOME デスクトップにログインし、端末ウィンドウでこのコマンドを入力します。

```
xset m 1 1
```

この変更は永続的ではありませんが、この変更により、すぐにマウスの移動が簡単になり、より永続的な変更をもたらす手順を実行できます。

端末ウィンドウの取得時に問題が発生した場合は、これらの方法のいずれかを試してください。

- マウスの右ボタンをクリックします。デスクトップのポップアップが表示されたら、「e」と入力します。
- キーボードで Alt-F2 キーを押して、端末ウィンドウを取得します。次に、「**gnome-terminal**」と入力します。
- Alt-Tab キーを押して、目的の端末ウィンドウをアクティブとして選択します。

回避方法 B: 永続的かつ持続的な解決策として、これらの手順を実行します。

1. GNOME デスクトップでシステムにログインします。
2. 「起動」 > 「システム」 > 「設定」 > 「マウス」の順に選択します。

別の方法として、Alt-F2 キーを押してから「**gnome-mouse-properties**」と入力しても、この場所に到達できます。

3. マウスの設定をこれらの値に変更します。

- Pointer Speed Acceleration = Slow
- Pointer Speed Sensitivity = Low
- Drag and Drop Threshold = Small

キーボードを使用している場合は、目的の項目が強調表示されるまで Tab キーを押して移動します。値ごとに、左矢印キーを押してスライドを左の端まで移動します。

これらの変更は永続的であり、画面ロックやログアウトのあとも持続します。

回避方法 C: Oracle Solaris 11 OS では、別の方法を使用して、問題のあるマウスのアクセラレーションを最初に無効にできます。ただし、この方法で行われた変更は、Xorg セッション中のマウスアクセラレーションへのその後の変更によってオーバーライドされます。

1. 編集のためにこのファイルを開きます。

```
/etc/hal/fdi/preprobe/10osvendor/10-x11-input.fdi
```

そのファイルのほかのコピーをこのディレクトリ内に残さないようにしてください。

2. 次の行を見つけます。

```
<merge key="input.x11_options.StreamsModule" type="string">usbms</merge>
<merge key="input.x11_options.Protocol" type="string">VUID</merge>
```

3. それらの行のあとに、これらの行を追加して、ファイルを保存します。

```
<merge key="input.x11_options.AccelerationScheme" type="string">none</merge>
<merge key="input.x11_options.AccelerationNumerator" type="string">1</merge>
<merge key="input.x11_options.AccelerationDenominator"
type="string">1</merge>
<merge key="input.x11_options.AccelerationThreshold" type="string">1</merge>
```

4. これらの Oracle Solaris コマンドを入力します。

```
# svcadm restart hal
# svcadm restart gdm
```

警告メッセージが障害の発生した USB 接続を正しく示していない (15799824)

Oracle Solaris OS のブート時に、ごくたまにですが、警告メッセージがホストコンソールに表示されることがあります。例:

```
WARNING: /pci@340/pci@1/pci@0/pci@2/usb@0/hub@5 (hubd1): Connecting
device on port 1 failed
```

この警告メッセージは、SP と Oracle Solaris ホストとのネットワーク接続を確立して障害情報のやりとりを行うために使用される USB ネットワークデバイス (usbecm) がうまく接続できなかったことを示しています。

回避方法: ほとんどの場合、警告メッセージが表示された数秒後に USB デバイスは正常に接続します。

USB デバイスが正常に接続したかどうかを確認するには、Oracle Solaris の `/var/adm/messages` ファイルを調べて、後続のメッセージが接続を示しているかどうかを確かめます。

たとえば、`/var/adm/messages` ファイルからのこの抜粋の最後の行は、USB 接続が正常に行われたことを示しています。

```
WARNING: /pci@340/pci@1/pci@0/pci@3/usb@0/hub@5 (hubd2): Connecting device on
port 2 failed
NOTICE: usbecm1 registered
usba: [ID 912658 kern.info] USB 1.10 device (usb430,a4a2) operating
at full speed (USB 1.x) on USB 2.0 external hub: communications@2, usbecm1 at
bus address 3
usba: [ID 349649 kern.info] SunMicro Virtual Eth Device
usbecm1 is /pci@340/pci@1/pci@0/pci@3/usb@0/hub@5/communications@2
genunix: [ID 408114 kern.info]
/pci@340/pci@1/pci@0/pci@3/usb@0/hub@5/communications@2 (usbecm1) online
```

正常な接続を示すメッセージを確認できない場合は、Oracle Solaris ホストをリブートして USB 接続を再度確立します。

リブート後も接続の問題が続く場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

libldom/ldom_xmpp_client.c 内でファイル記述子が漏えいしている (15811297)

論理ドメインマネージャー (ldmd) がしばらく停止すると、Oracle Solaris の予測的自己修復 (Predictive Self-Healing, PSH) 障害管理デーモン (fmd) が動作しなくなる可能性があります。SPARC T5 シリーズサーバーでは、I/O 障害 (ディスク障害など) は Oracle Solaris の fmd によって診断されます。その他の障害は、SP の Oracle ILOM によって診断され、このバグの影響は受けません。

修正を含むパッチが入手可能になったら、そのパッチをインストールするようにしてください。11 ページの「[パッチを取得する](#)」を参照してください。

回避方法: I/O 障害が報告されていないと推測される場合は、これらの手順を実行します。

1. ldmd がオンラインかどうかを確認します。

ldmd がオンラインの場合、このバグは問題ではありません。『*SPARC T5-1B サーバーモジュールサービスマニュアル*』に記載されている障害管理手順を参照してください。

ldmd がオフラインの場合は、手順 2 に進みます。

2. ldmd を再起動します。
3. fmd を再起動します。
4. システムログファイルを表示します。

fmd が動作していない間に I/O 障害が発生した場合は、ログファイル内の情報を使用して問題を特定します。

誤った sunos.eft.unexpected_telemetry 障害が報告されることがある (15820471)

多数の訂正可能なエラーを報告するデバイスは、無効にされている間もエラーを報告し続けます。各エラーはキューに入れられ、順番に診断されます。まれに、デバイスによって報告された最後のエラーがキューに入れられたあと、そのデバイスが無効になるまで診断の処理が行われないことがあります。この最後のエラーが予期しないテレメトリとして報告されるのは、デバイスがそのシステムで有効でなくなっているからです。

例:

```
# fmadm faulty
-----
Time                UUID                msgid
Problem Status     : solved
Diag Engine        : [unknown]
System
  Manufacturer     : Oracle Corporation
  Name              : T5-1B
  Part_Number      : 7045605
  Serial_Number    : xxxxxxxxxx
Severity
-----
Suspect 1 of 2
  Fault class      : fault.sunos.eft.unexpected_telemetry
  Certainty       : 50%
  Affects         : dev:///pci@1040/pci@1/pci@0
  Status          : faulted but still in service
-----
FRU
  Status          : faulty
  Location        : -
  Chassis
    Manufacturer   : Oracle Corporation
    Name           : T5-1B
    Part_Number    : 7045605
    Serial_Number  : xxxxxxxxxx
2012-10-04/17:24:07 87732365-faa6-e9cd-bf2a-9052cb8cf876 SUNOS-8000-J0 Major
-----
Suspect 2 of 2
  Fault class      : defect.sunos.eft.unexpected_telemetry
  Certainty       : 50%
  Affects         : dev:///pci@1040/pci@1/pci@0
  Status          : faulted but still in service
FRU
  Status          : faulty
Description: A fault has been diagnosed by the Host Operating System.

Response   : The service required LED on the chassis and on the affected
            FRU may be illuminated.

Impact    : No SP impact.
```

```

Action      : Refer to the associated reference document at
              http://support.oracle.com/msg/SUNOS-8000-J0 for the latest
              service procedures and policies regarding this diagnosis.
Location    : -
Chassis
Manufacturer : Oracle Corporation
Name        : T5-1B
Part_Number  : 7045605
Serial_Number : xxxxxxxxxx

```

回避方法: 予期しないテレメトリ障害は無視してかまいません。この障害を消去するには、これらの手順を実行します。

1. **fmadm faulty** コマンドを入力して障害の UUID を取得します。

```

# fmadm faulty
-----
Time                UUID                                msgid                ...
Severity
-----
2012-10-04/17:24:07 87732365-faa6-e9cd-bf2a-9052cb8cf876 SUNOS-8000-J0 Major

```

2. その障害 UUID を使用して、予期しないテレメトリ障害を Oracle Solaris ホストから消去します。

```
# fmadm repair 87732365-faa6-e9cd-bf2a-9052cb8cf876
```

ilomconfig が Internal Error を報告することがある (15823485)

OS と SP の間の通信チャンネルを有効にする Oracle Solaris の **ilomconfig** コマンドが **Internal Error** メッセージを表示して失敗することがときどきあります。

この通信チャンネルはデフォルトで有効になっており、操作の通常の過程で無効になることは普通はありません。ただし、スーパーユーザーがこの Oracle Solaris コマンドを使用すれば、そのチャンネルを無効にできます。

```
# ilomconfig disable interconnect
Host-to-ILOM interconnect disabled.
```

その相互接続を有効にするためのコマンドが、このエラーメッセージを表示して再度失敗することがときどきあります。

```
# ilomconfig enable interconnect
ERROR: Internal error
```

この状況が発生した場合は、回避方法に従ってリンクを再度有効にします。これは、そのリンクが Oracle Solaris インスタンスと SP の間の診断データの転送に使用されていて、すぐに有効にし直す必要があるためです。

回避方法: コマンドを再入力して相互接続を有効にします。

```
# ilomconfig enable interconnect
Host-to-ILOM interconnect successfully configured.
```

障害が続く場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

再構成のあとに POST が機能しない (15968276)

POST はブートシーケンスの一環として実行され、システムがハードウェア障害を検出すると、POST の ERROR メッセージ (そのあとに INFO メッセージが続く) が表示されることがあります。ブートシーケンスは続行しますが、システムには未検査のハードウェアが含まれる可能性があります。未検査のハードウェアは、ブート後に OS で利用できません。

このような場合、POST は数分間ストールしてから、エラーレポートを送信します。

例:

```
2013-01-23 15:30:55:990 0:0:0>ERROR:
  ereport.chassis.post.io.test-fail@/SYS/MB/CM0/CMP/PCIE_LINK1
  reporting PCPU ID=0
  TestTitle=IO Trap Handler
  Operation=Data Access Error (Type: 32)
  Trap PC=0x00000000000560b8c
  Trap Level=0x01
  NPESR=0x0000000000000001
  NPEAR=0x0000805100700000
END_ERROR

2013-01-23 15:30:56:054 0:0:0>INFO: Link Down Recovery Not Supported
2013-01-23 15:31:02 0:0:0> ERROR: POST Timed out. Not all components
  tested
```

回避方法 A: `fmddump -eV` コマンドを使用して、エラーログとコンソールメッセージを確認します。障害のあるハードウェアがあれば、交換または修理します。

回避方法 B: POST を再起動します。POST は、障害のあるコンポーネントがすでに構成解除されているシステムでは動作します。

一部の USB 3.0 デバイスでタイムアウトが発生し、ホストがハングアップすることがある (16019551 および 15985683)

サーバーモジュールのフロントドングルで利用できる 2 つの USB ポートは USB 2.0 に準拠しています。いくつかの USB 3.0 デバイス (特に外付けの USB ハブの背後にあるもの) を使用して OS をインストールまたはブートすると、アクションが止まってしまい、これらのメッセージが表示されることがあります。

```
WARNING:
/pci@340/pci@1/pci@0/pci@2/usb@0/hub@5/hub@3/storage@1/disk@0,0
(sd12): SCSI transport failed: reason 'timeout': giving up
```

一部の極端な場合は、この状況によってホストがハードハングすることがあります。

回避方法:

1. これらの方法のいずれかを使用して、ホストにブレークを送信し、ホストコンソールに接続します。

- Oracle ILOM CLI の使用

```
-> cd /HOST
-> set send_break_action=break
-> start /HOST/console
```

- Oracle ILOM Web インタフェースの使用

a. 「Host Management」 > 「Power Control」の順に選択します。

b. 「Select Action」で「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。

c. ポップアップメニューで「OK」をクリックします。

2. ホストで **ok** プロンプトが表示されたら、外付けのハブをすべて取り外し、USB デバイスをフロントドングルに直接接続するか、標準に準拠した別の USB デバイスを使用して、操作を再試行します。

3. ホストに **ok** プロンプトが表示されない場合は、外付けのハブをすべて取り外し、USB デバイスをフロントドングルに直接接続するか、別の標準の USB 準拠のデバイスを使用したあと、これらの方法のいずれかを使用してホストの電源を再投入します。

- Oracle ILOM CLI の使用

```
-> reset /SYS
```

- Oracle ILOM Web インタフェースの使用

a. 「Host Management」 > 「Power Control」の順に選択します。

b. 「Select Action」で「Reset」を選択して、「Save」をクリックします。

c. ポップアップメニューで「OK」をクリックします。

Link error on port 3 警告 (16038894)

USB デバイスが内蔵の USB ポートソケットに取り付けられているサーバーモジュールの電源投入時に、この警告メッセージが表示されることがあります。

```
WARNING: /pci@340/pci@1/pci@0/pci@2/usb@0: Link error on port 3,
resetting.
```

回避方法: この警告メッセージは無視しても問題ありません。デバイスは完全に機能しているはずですが、デバイスが機能していない場合は、Oracle サポートにお問い合わせください。

ドライブを構成解除したときに、ドライブの取り外し OK LED が点灯しないことがある (16051551)

この問題は、Oracle Solaris 10 1/13 OS が動作しているサーバーモジュールにのみ該当します。

cfgadm コマンドを使用してドライブを構成解除した場合に、そのドライブの青色の取り外し OK LED が点灯しないことがあります。この問題により、ドライブが取り外し可能であることを確認したり、ドライブの物理的な位置を特定したりするのが難しくなります。

回避方法: これらの手順を実行して、ドライブが取り外し可能であることを確認したり、ドライブの物理スロットを特定したりします。

1. **cfgadm** コマンドを使用して、構成解除を予定しているドライブの WWID を特定します。

この例では、5 番目のドライブが構成解除されます。5 番目のドライブの WWID は **w5000c50033278c09,0** です。

```
# cfgadm -al | grep disk
c7::w5000cca016065039,0      disk-path    connected   configured  unknown
c8::w5000cca0257b4999,0      disk-path    connected   configured  unknown
c9::w5000cca0257ca335,0      disk-path    connected   configured  unknown
c10::w5000cca03c252999,0     disk-path    connected   configured  unknown
c13::w5000c50033278c09,0     disk-path    connected   configured  unknown
```

2. ドライブを構成解除します。

```
# cfgadm -c unconfigure c13::w5000c50033278c09,0
```

3. ドライブが構成解除されていることを確認します。

```
# cfgadm -al | grep disk
c7::w5000cca016065039,0      disk-path    connected   configured  unknown
c8::w5000cca0257b4999,0      disk-path    connected   configured  unknown
c9::w5000cca0257ca335,0      disk-path    connected   configured  unknown
c10::w5000cca03c252999,0     disk-path    connected   configured  unknown
c13::w5000c50033278c09,0     disk-path    connected   unconfigured unknown <<==
```

ドライブの取り外し OK LED が点灯しない場合は、残りの手順を実行します。

4. **prtconf -v** コマンドの出力をファイルに送信します。

```
# prtconf -v > /tmp/prtconf.out
```

5. エディタを使ってそのファイルを開き、構成解除されたドライブの WWID (この手順の例では **5000c50033278c09**) を検索します。
6. その出力で、ドライブの位置とそのドライブがオフラインであることを確認します。

ドライブの位置を特定するには、WWID の 2 行上を確認します (この例では HDD4)

WWID を含む行のあとの行を確認します。「**offline**」という語は、そのドライブが構成解除されていることを示します。

```

disk, instance #13 (driver not attached)
  System software properties:
    name='ddi-devid-registrant' type=int items=1
    value=00000001
  Hardware properties:
    name='class' type=string items=1
    value='scsi'
    name='inquiry-revision-id' type=string items=1
    value='0B70'
    name='inquiry-product-id' type=string items=1
    value='ST930003SSUN300G'
    name='inquiry-vendor-id' type=string items=1
    value='SEAGATE'
    name='inquiry-device-type' type=int items=1
    value=00000000
    name='compatible' type=string items=4
    value='scsiclass,00.vSEAGATE.pST930003SSUN300G.r0B70' +
'scsiclass,00.vSEAGATE.pST930003SSUN300G' + 'scsiclass,00' + 'scsiclass'
    name='client-guid' type=string items=1
    value='5000c50033278c0b'
location: /dev/chassis/SPARC_T5-2.114BD5ZZZ//SYS/SASBP/HDD4/disk <== Location
  Paths from multipath bus adapters:
    Path 5:
/pci@3c0/pci@1/pci@0/pci@2/scsi@0/iport@1/disk@w5000c50033278c09,0
    mpt_sas#7 (offline) <==
Driver offline means drive is unconfigured.
    name='wwn' type=string items=1
    value='5000c50033278c0b'
    name='lun' type=int items=1
    value=00000000
    name='lun64' type=int64 items=1
    value=0000000000000000
    name='target-port' type=string items=1
    value='w5000c50033278c09'
    name='attached-port' type=string items=1
    value='w508002000147f5b1'
    name='attached-port-pm' type=string items=1
    value='1'
    name='target-port-pm' type=string items=1
    value='1'
    name='phy-num' type=int items=1
    value=00000000
    name='obp-path' type=string items=1
    value=

```

```
'/pci@3c0/pci@1/pci@0/pci@2/scsi@0/disk@w5000c50033278c09,0'
```

iPOST の power-on-reset、error-reset、および hw-change トリガーが機能しない (16192025)

これらの Oracle ILOM プロパティは、SP のブート時に iPOST (Oracle ILOM POST) が動作するかどうかを制御します。

- /SP/diag mode
- /SP/diag trigger

デフォルトでは、これらのプロパティは iPOST の実行が無効になるように定義されています。
例:

```
/SP/diag mode=off
/SP/diag trigger=all-resets
```

/SP/diag mode を normal に変更して iPOST を有効にした場合に、さらに /SP/diag trigger を all-resets からその他の値 (power-on-reset、error-reset、または hw-change) に変更した場合、iPOST は動作しません。

また、ブートシーケンス中に、iPOST が動作しなかったことを示すこれらのメッセージが SER MGT ポート上に表示されます。

```
...
Starting IPMI Stack: . Done
Starting BBR daemon...
bbrd started after 0 seconds.
Starting SP fishwrap cache daemon: fishwrapd . Done
FPGA iPOST skipped
Starting Host daemon: hostd . Done
Starting Network Controller Sideband Interface Daemon: ncsid . Done
Starting Physical Domain Manager: pdm . Done
Starting Platform Obfuscation Daemon: pod . Done
Starting vbosc daemon: vbosc . Done
...
```

回避方法: これらの手順を実行して iPOST を有効にします。

1. Oracle ILOM にログインします。
2. ホストの電源が入っていないことを確認します。
3. Oracle ILOM の **diag** プロパティを構成します。
 - Oracle ILOM CLI から、次を入力します。

```
-> set /SP/diag mode=normal
-> set /SP/diag trigger=all-resets
```

- Oracle ILOM BUI で、「System Management」>「Diagnostics」を選択します。3 つのトリガーボックスをすべて選択し、「Mode」を「Normal」に変更します。
4. SP をリセットします。

システムコンソール上の出力によって、iPOST が動作していることが示されます。

```

...
Starting IPMI Stack: . Done
Starting BBR daemon...
bbrd started after 0 seconds.
Starting SP fishwrap cache daemon: fishwrapd . Done
Running FPGA iPOST
Starting Host daemon: hostd . Done
Starting Network Controller Sideband Interface Daemon: ncsid . Done
Starting Physical Domain Manager: pdm . Done
Starting Platform Obfuscation Daemon: pod . Done
Starting vbsc daemon: vbsc . Done
...

```

同じ名前の複数の ldmd 構成ファイルが存在する場合に Oracle ILOM が混乱する (16239544)

複数の ldmd 構成ファイルをさまざまな名前で持つことができます。それらの名前は大文字と小文字の区別がある (つまり、**Alpha** と **alpha** は異なる名前である) ため、同じ単語を使用する構成ファイルを持つことができます。Oracle ILOM の UI 名は大文字と小文字の区別がありません (ただし、大文字と小文字を保存する)。このため、**Alpha** や **alpha** のような複数の構成ファイル名は、Oracle ILOM UI に混乱をもたらします。

たとえば、複数の構成ファイル名が存在する場合に、このコマンドを入力すると、UI はハングアップします。

```
-> show /HOSTx/domain/configs
```

回避方法: 大文字と小文字が一致する **ldmd** 構成ファイルの 1 つを削除します。そして、Oracle ILOM インフラストラクチャーが UI プロセスを自動的に再起動するまで待ちます。

SAS Disconnected command timeouts が表示されることがたまにある (16345218)

ごくたまに、これらの警告メッセージがホストコンソールに表示されることがあります。

```

WARNING: /pci@300/pci@1/pci@0/pci@4/scsi@0 (mpt_sas0):
Disconnected command timeout for Target 9
WARNING: mptsas_ioc_task_management failed try to reset ioc to
recovery!
WARNING: Target 9 reset for command timeout recovery failed!

```

この警告メッセージは、内蔵のハードおよびソリッドステートデバイスへのアクセスに使用される SAS コントローラ (**mpt_sas**) がうまく通信できないことを示しています。結果として、SAS コントローラがリセットされ、I/O コマンドが再発行されます。

ほとんどの場合、これらのメッセージで示されるように、SAS コントローラは再接続に成功し、I/O コマンドは通常どおりに実行されます。

```
mptsas0 Firmware version v14.0.0.0 (?)  
mptsas0: IOC Operational.
```

回避方法:

正常なコントローラのリセットを示すメッセージを確認できない場合は、Oracle Solaris ホストをリブートして、SAS コントローラからディスクへの接続を再度確立します。リブート後も接続の問題が続く場合は、Oracle 承認サービスプロバイダにお問い合わせください。

CPU の電力管理によってディスクの IOPS パフォーマンスが低下する可能性がある (16355418)

短期間に非常に多くの I/O 操作の実行を試みる I/O 集中型のワークロードは、無負荷時のシステムであっても、I/O パフォーマンスの低下を招く可能性があります。ただし、実行する負荷の大きな I/O 操作の数が少なければ、この問題の影響を受けません。

回避方法: 影響を受けるドメイン内で次のコマンドを入力します。

```
# poweradm set administrative-authority=none
```

この問題が続く場合は、Oracle サービスプロバイダにお問い合わせください。

Oracle Solaris 10 OS が一部の障害情報を表示しない (16456603)

この問題は Oracle Solaris 10 OS にのみ該当します。この問題は Oracle Solaris 11.1 OS には該当しません。

SPARC T5 シリーズサーバーは、Oracle Solaris OS 内で SP (Oracle ILOM) 障害を表示する機能を導入しています。ただし、影響を受けた FRU、FRU の場所、プラットフォームのシリアル番号といった一部の情報フィールドは Oracle Solaris 10 OS によって正しく解釈されません。

以前のリリースのプラットフォームと同様に、重大な障害が SP で検出されると、シャーシの障害 LED が点灯して、SP のステータスを調べる必要があることが示されます。

回避方法: 不明な情報や不完全な情報を含むプロキシ障害が発生した場合は、必要な情報を SP から収集します。手順については、『*SPARC T5-1B サーバーモジュールサービスマニュアル*』を参照してください。